

俳句の部

吉原 白天 選

☆☆ 特 選 ☆☆

白寿なる母のえくぼや初鏡

杵築市 岸川 房子

鏡に映っている母の顔がほほ笑ましい。九十九歳の母はどんな思いで、正月早々、鏡を見ているのだろう。後一年で百歳。これから先の事を聞いているのかも知れない。想像を拡げ、簡潔で奥の深い句になっている。

☆☆ 入 選 ☆☆

群青の湾に映えいる鰯雲

別府市 蛸原 テルヨ

群青色の海に鰯雲、青と白の対比、素晴らしい湾の風景が浮かんでくる句です。鰯雲という季語が海と相俟つた良句となっています。

初日の出堅く結ばる夫婦岩

由布市 松村 勝美

岩と岩に渡した注連縄に太陽が昇つて来る光景です。堅く結ばれるは人と人の絆です。初日の出を用いた実に縁起の良い良句です。

集落の沈む湖面に浮くもみじ

中津市 長野 美智子

ダムを造る関係か何かで里は沈みました。今は湖になつて、もみじが浮いています。なんとも言い難い気持ちの伝わる良句です。

阿 部 王 一 選

☆☆ 特 選 ☆☆

世の端に生きて米寿の初湯かな

大分市 小田 祥子

自分の人生の主人公は、誰もが自分自身である。それでも、世の端に生きてと中心ではないことを客観視している作者。めまぐるしく変化した昭和を生きぬき、今年は戦後八十年の節目。初湯につかりながらの回想。

☆☆ 入 選 ☆☆

長老の喝で和解のちゃんちゃんこ

豊後大野市 後藤 勝利

些細なことから始まった口論。互いの思いを存分に伝えあつた挙げ句の場面であらう。長老の存在感ここにあり、という一句。

大鯉の顔に傷あと冬深し

豊後大野市 下田 明美

水底でじつと動かぬ大鯉。よく見ると顔に傷がある。長生きすればいろいろなことを経験するもの。それは鯉も人間も同じ。

辞書を手に孫に文書く夜長かな

国東市 糸永 ケサヨ

電話やメールなど、通信手段はさまざまあるが、大切なことはやはり手紙で伝えた。言葉の意味を確かめながらしたためる手紙。

中 尾 豊 子 選

☆☆ 特 選 ☆☆

初春や紀元ひもとく宇佐の宮

宇佐市 衛藤 博幸

全国八幡社の総本宮である宇佐神宮は、今年御鎮座1300年を迎えた。作者は改めてその歴史に思いを馳せている。「初春」の季語がめでたさを重ねる。多くの人々に支えられて歴史ある文化遺産は未来へとつながれていく。

☆☆ 入 選 ☆☆

夏来る鍛へあげたるふくらばぎ

竹田市 衛藤 日出子

脹脛は第二の心臓と言われる。「夏来る」と断定して、酷暑に立ち向かう心意気を表している。この夏もこの脹脛があれば大丈夫。

小鳥くる老の暮しもやや多忙

大分市 諫山 真砂子

程々の忙しさは自ずと体を動かし人との交流も多くなる。これこそ健康長寿の秘訣。「小鳥来る」の明るい季語に軽快な活躍を想像する。

ウインクの夫のよこぎる初鏡

津久見市 湖人

なんとも微笑ましい情景。鏡を横切つた夫に焦点を当てた所に俳味の妙あり。ウインクは何のサインか気になるが詮索は止めておこう。